

株式会社東芝原子力技術研究所臨界実験装置（NCA）の自動停止について

原子力規制室

平成16年10月26日

1. 事業所

株式会社東芝 原子力技術研究所

2. 原子力施設

(1) 名称 臨界実験装置 (NCA)

(2) 主要仕様 熱出力：最高200W

3. 発生年月日

平成16年7月13日

4. 件名

株式会社東芝原子力技術研究所臨界実験装置 (NCA) の自動停止

5. 事象内容

臨界実験装置 (NCA) を起動し出力上昇中 (目標0.005W程度)、Ch.6出力系中性子検出器のスクラム信号が発生し、11時00分、臨界実験装置が自動停止した。

臨界実験装置が自動停止した原因は、経年劣化によりCh.6出力系中性子検出器の低圧電源に一時的な動作不良 (電圧変動) が生じ、これに接続する高圧電源の電圧が変動し、Ch.6出力系中性子検出器に過剰な電流が流れ、直流増幅器の電流出力がスクラム設定値を超えたことによるもの。

なお、事業所内外において放射性物質の影響はなかった。

6. 評価結果及び判断根拠 (平成16年7月13日)

(1) 基準1：-

(判断根拠：事業所外における放射性物質の影響はなく評価に関係しない)

(2) 基準2：-

(判断根拠：事業所内における放射性物質の影響はなく評価に関係しない)

(3) 基準3：レベル0

判断根拠：本事象におけるスクラム信号が発生したことによる臨界実験装置の自動停止は、通常の原子炉自動停止シーケンスであり、明らかに安全上の重要性がない事象である。また、評価レベルを一つあげる付加的要因はない。従って、レベル0と判断される。

(4) 評価結果 暫定値

レベル0 (尺度以下)

[基準1：-、基準2：-、基準3：レベル0]